

WLBな人

仕事も、プライベートもどちらも大切にしながら、自分らしく生きる人を紹介します。

ヨドプレ株式会社



高尾拓也さん
生産・品質管理部CAD

筒井稔久さん
営業部営業課 係長

永指政樹さん
営業部業務課 課長

石田智治さん
生産・品質管理部 係長

藤田成明さん
営業部業務二課 主任

従業員主導で時短を推進 継続することで成果を出したい

わが社には部署を超えて活動する委員会があります。われわれ時短改善推進委員会は、労働時間の短縮を推進するリーダー部門です。2006年の立ち上げからこれまでに、各部署の現状分析や月2回のノー残業デーの実施、残業時間の事前申請制度導入など、さまざまな取り組みを展開してきました。

2013年4月からは若手社員も加入し、新メンバーで再出発。従来のメンバーはオブザーバーとして参加しています。月1回の委員会は、各部署の1カ月間の取り組みとその結果が発表され、それについて他部署の人が意見を述べる形で進められます。発表内容はあらかじめ書面によりメンバーに伝えられているので、より踏み込んだ意見が出ます。

委員会発案のものとして、8月から新たに週2回、生産工程に関わる部門の代表によるミーティングが始まりました。時短を進めるには、部署間のコミュニケーションをもっとよくする必要があるという結論に達したからです。ミーティングでは現在進めている作業の状況を中心に、少しでも生産性が上がるように情報を交換しています。

残業を減らすためには、自分のことだけを考えるのではなく、周りの人や他の部署のことも理解する必要があります。まずは自分で努力をし、部署内で報告し合い、大変な人がいたら助けるという流れがうまくできてきました。結果、生産性も向上し、会社の業績も伸びています。今後も、継続して時短の活動を進め、成果を蓄積していきたいと思っています。

多能工化で効率アップ

製造部門には3つの工場があるのですが、以前は工場間のコミュニケーションが取れていませんでした。残業を減らすためには、他の工場からの助けが必要な場合がありますので、普段から3つの工場間でミーティングを行い、ローテーションで他の工場の仕事もするようにしました。多能工化を図ることで応援態勢が整い、互いに助け合うようになりました。



石田智治さん

常に時短が頭にある

CADは営業と現場の中間のポジションなので、われわれの仕事が早いか遅いかで、他の部署の時短にも大きく影響します。だから日常的にいかにも効率よく仕事ができるかを考えています。新たに入手した情報をいち早く工場に進言するなど、現場とのコミュニケーションも大事にしています。



高尾拓也さん

広がった視野

委員会を経験することで、他の部署の大変さが分かり、営業部以外のことも考えるようになりました。いろいろな視点で物事を見られるようになったと思います。社のメンバーでフットサルをやろうという声も挙がっています。時間にゆとりができたことで、みんなの表情が明るくなりましたね。



筒井稔久さん

みんなの顔つきが変わった

時短という目標ができたことで、みんなの顔つきが変わってきました。効率的に仕事をするのも、初めは「しんどい」だったものが、「どうこなそうか」と考えるようになり、一人ひとりが自己管理をするようになりました。時短に取り組みれば、生産性が上がり、会社がもうかるということが分かったのですね。



藤田成明さん

仕事は緊張と緩和

業務課では15時に目標残業時間を申告。16時に仕事の出来具合を報告し合い、他の人ができる場所はフォローし合うということを毎日実施しています。やる時はやる、やらない時はやらないとめりはりを付け、プライベートも充実させようとみんなで頑張っています。



永指政樹さん

上司からのメッセージ

さまざまな部署の人間が集まる委員会は、最初は利害が衝突することもあります。納得していないことでも、決定事項は自分の部署に帰って同僚たちに伝え、動いてもらわないといけません。でも、続けていくことで必ず進歩はあります。やったら必ず報われるということに彼らは気付き始めています。その体験を自分の仕事やプライベートに生かしてほしいです。



総務部長
浜根雅一郎さん

MESSAGE

ここをCHECK!



DATA

ヨドプレ株式会社

建築用構造物加工業、木材・住設建材販売業ほか

加西市田原町宮ノ谷3179-3

☎0790(49)1511

設立 1990年

従業員数 117人

部門の枠を超えて意見を交わす委員会は、時短改善推進委員会の他に、安全衛生委員会、環境経営委員会、品質連絡会議がある。社員にできるだけ休んでもらおうと年間休日を105日から108日に変更し、リフレッシュ休暇制度も導入。代休も、休日出勤してから3カ月以内ならいつでも取れる。また、2年に1回、海外への慰安旅行が実施される。